

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員と地域おこし協力隊員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓

秋から栽培を開始する直売所向けの花き

直売所での販売に適する花のうち、今回は秋から栽培を始めようという方に、ハナナとキンセンカの2種の栽培を紹介します。これらの花きは高単価ではないものの、比較的栽培が容易で直売所向きといえます。なお、いずれの花きも露地で栽培できますが、ハウスの栽培が有利です。

1 ハナナ（菜の花）

低温に強く、栽培が容易で県北では他に出荷できる花が少



ない時期に出荷できることが強みの花きです。播種は9月下旬から2週間程ずらしながら2〜3回ハウス内に直播します。開花は2〜3月ごろですが、品種によつては年内開花のものもあります。播種は20センチメートル程度の間隔をあけて条播にし、本葉が2〜3枚の時に間隔が5〜6センチメートルになるように間引きします。

肥料はチッソ、リン酸、カリそれぞれで分量で1アール当たり12キログラム程度とし、その内6

キログラムを基肥として播種前に施用し、残りは生育を見ながら2〜3回に分けて施用します。

2 キンセンカ

耐寒性は比較的強い花きですが、冬期の栽培で早春2〜3月に



出荷するためには、庄原地域ではハウス内での栽培が必要です。播種が8月下旬から9月中旬の高温の期間であるため、できるだけ涼しい環境のもとで育苗する必要があります。本葉が5〜6枚くらいになったらハウス内に定植します。条間は40センチメートル程度、株間は20センチメートル程度とします。

肥料はチッソ、リン酸、カリそれぞれで分量で1アール当たり2.5キログラム程度とし、その内60パーセントを基肥として定植前に施用し、残りを生育を見ながら2回に分けて施用します。なお、PHは6.5〜7.0程度の中性気味を好むので、石灰質肥料を施用することも大切です。本葉が10枚の時点で7〜8枚を残して摘み取ります。病気では、うどんこ病の発生が多いので、早めの防除を心掛けるようにします。

問い合わせ

農業振興課 農業振興係
☎ 0824・73・1132

女性からはじめる 獣害対策

地域おこし協力隊 草谷 夏枝

地域の対策に必要なものは？

●まずは「みんなで勉強会」

西城町大屋本谷集落は地域で獣害対策に取り組んでいる集落です。「守れる展示圃」の先駆けで、本年で既に7年目の取り組みです。



6月に農業雑誌の取材を受ける様子。「安心して」「食わせる」という「餌付け行為」をやめることが対策の根幹です。7年間基本理念は変わっていません。

●継続の源は「笑顔と仲間」

「楽しくないと続けられません」と言う集落の皆さん。毎月1回、共同畑で自主的な獣害対策と野菜作りの勉強会をしています。それがコミュニケーションの場にもなっています。

7月に集落で行われた焼肉会では、守った畑で収穫した野菜なども味わいました。

「獣害対策は楽しんだもの勝ち！」を合言葉に、生き生きとした活動が市内でも行われています。



毎月行っている畑の勉強会ではモグラ獲りの仕掛け方も実施。モグラに回避されるときは「器具の臭いを消すこと」と「通路より低めに設置すること」をチェックしましょう。

●「秋の鳥獣お悩み座談会」

とき 9月9日（土） 8時30分〜
ところ 三日市圃場（ふれあいセンター玄関前に8時30分集合）

内容

「対策のスタートはこの季節！秋野菜と秋の鳥獣対策」

この時期から草刈りを最小限にすることが獣害対策につながることを知っていますか。何が動物を寄せる原因となっているかを、きちんと理解して対策しましょう。毎回「畑の先生」を迎えて実施する座談会。病虫害や野菜についてのお悩みも相談できます。どうぞお気軽にご参加ください。※事前申し込みが必要です。

問い合わせ

林業振興課 林業振興係
☎ 0824・73・1124